

東京大学大学院 医学系研究科

公共健康医学専攻

University of Tokyo
School of Public Health

The University of Tokyo SPH

専門職大学院



目次

- P1. 本専攻の概要
- P2. 公共健康医学専攻を構成する講座・分野
および担当教員の一覧

疫学保健学大講座

- P3. 生物統計学分野
- P4. 社会予防疫学分野
- P5. 臨床疫学・経済学分野
- P6. 医療コミュニケーション学分野

行動社会医学大講座

- P7. 精神保健学分野
- P8. 健康教育・社会学, 保健社会行動学分野
- P9. 医療倫理学分野
- P10. 保健医療人材育成学分野

医療科学大講座

- P11. 健康医療政策学分野
- P12. 臨床情報工学分野
- P13. 医療情報システム学分野
- P14. 法医学・医事法学分野
- P15. 国際環境保健学分野

連携講座

- P16. 保健医療科学分野
- P17. 教育課程等の概要
- P19. 授業科目一覧
- P23. 2011年度～2023年度 受験・合格者状況
- P26. 公衆衛生学に関する博士課程について
- P28. Departments and Faculty members
- P29. Outline of the curriculum
- P32. 公共健康医学専攻修了生からのメッセージ
- P35. アクセスマップ



東京大学 大学院 医学系研究科
公共健康医学専攻

本専攻の概要

本専攻は、国民や地域住民、患者も含めた広範な人々の健康の維持、増進、回復及び生活の質（quality of life）の改善において、指導的な役割を果たす公衆衛生分野の高度専門職業人を養成することを目的とする専門職大学院で、平成19年度に開設されました。

公衆衛生学は社会に直接関わる研究分野としてますます発展してきており、研究も学術性だけではなく実際的な成果が期待されています。急速に進行する少子高齢化、地方分権、突発的な新興・再興感染症やバイオテロの発生、労働現場における過労死・自殺等の増加、医療事故や医療経営環境悪化などの現代的問題への対応は、わが国の喫緊の課題です。そのため人間集団の健康を対象にした分析手法を身につけ、保健医療に関わる社会制度を体系的に理解し、政策立案・マネジメント能力に優れたパブリックヘルス・マインドを持った高度専門職業人の育成が急務となっています。

東京大学大学院医学系研究科では、公衆衛生領域のこうした高度専門職業人養成のための専門職大学院として公共健康医学専攻を平成19年4月に新設しました。通常の標準修業年限2年のコースに加えて、医療関連で一定程度の実務経験を有する人には標準修業年限1年のコースが用意されている点が大きな特徴で、修了者には公衆衛生学修士（専門職）-英語名：Master of Public Health(MPH)-が授与されます。本専門職大学院では、公共性や職業倫理を重視しているため、専攻名を公共健康医学としていますが、内容的には海外の公衆衛生大学院に相当するものです。

公共健康医学専攻教員一覧 (2024年4月1日現在)

大講座	分野名(教室名)	教授	准教授	講師
疫学保健学	生物統計学	松山 裕 小出 大介(特)	大庭 幸治(兼)	
	社会予防疫学	村上 健太郎		
	臨床疫学・経済学	康永 秀生	松居 宏樹 笹渕 裕介(特) 麻生 将太郎(特)	宮脇 敦士(特)
	医療コミュニケーション学	木内 貴弘	奥原 剛	
行動社会医学	精神保健学	西 大輔	今村 幸太郎(特)	佐々木 那津 櫻谷 あすか(特)
	健康教育・社会学			鎌田 真光
	保健社会行動学	橋本 英樹		高木 大資
	医療倫理学		瀧本 禎之 上竹 勇三郎(兼)	中澤 栄輔
	保健医療人材育成学			大西 弘高(兼)
医療科学	健康医療政策学	東 尚宏(兼)	稲田 晴彦(兼)	
	臨床情報工学	小山 博史		
	医療情報システム学	大江 和彦(兼)	脇 嘉代(兼) 今井 健(兼) 河添 悦昌(特)	新 秀直(兼) 井田 有亮(特) 横田 慎一郎(兼)
	法医学・医事法学	榎野 陽介(兼)		
	国際環境保健学		金 允姫 (Kim Yoonhee)	
	保健医療科学		福田 敬(連携)	
	環境健康医学		大迫 誠一郎(兼)	

(特) 特任教員 (兼) 専攻兼任 (連携) 連携教員

松山 裕 教授 / Yutaka Matsuyama

大庭 幸治 准教授 / Koji Oba



1. 「生物統計学」とは？

生物統計学は、医学研究（基礎・臨床・疫学）の実践においてデザインと統計解析に関する統計的方法論を提供する分野です。わが国における生物統計学の教育は欧米に比べ遅れ、講座の設立は1992年の東京大学医学部健康科学・看護学科（現：健康総合科学科）の疫学・生物統計学が最初でした。その後、京都大学、大阪大学、名古屋大学等にも講座が開設されましたが、東京大学には他大学、国立がん研究センター、製薬企業等に多くの人材を供給し、教育・研究の面でこの分野をリードしてきた実績があります。公共健康医学専攻においては、臨床試験と薬剤疫学を含む疫学研究について、研究デザインと統計解析に関する実践的な教育を行います。

2. 担当科目、課題研究テーマ

医学データの統計解析、医学統計学演習、医学研究のデザインを担当します。生物統計学分野は、附属病院臨床研究支援センター、寄付講座・生物統計情報学、地域医薬システム学、国立がん研究センターなどの学内外の組織と協力して、主に研究者主導の臨床試験・疫学研究の支援を共同研究として多数行っています。公共健康医学専攻の院生に対しては、このような共同研究の場を課題研究およびインターンシッ

プに活用する予定で、研究デザイン、研究の立ち上げと管理、統計解析と報告といった研究の一連の流れを体験できる体制を提供していきたいと考えています。方法論の研究としては、臨床試験のデザイン、因果推論、メタ・アナリシス、疫学研究のデータ解析、QOL 調査とそのデータ解析などが現在のテーマの中心です。

3. 本分野の教育・研究活動の詳細

さらに詳細な情報は、HP をご覧ください。

<http://www.epistat.m.u-tokyo.ac.jp/>
生物統計学分野の教育・研究活動に関心のある方は遠慮なくご連絡ください。

Department of Biostatistics is the longest established laboratory of biostatistics and theoretical epidemiology in Japan. We are working on: Methodological researches on biostatistics, designs of clinical trials, epidemiological theories, computational statistics, etc.

Application of advanced statistical methods to up-to-date public health research data design, conduct and analysis of clinical trials by collaborating with medical professionals.

Please see our research activity from the above web page.

村上 健太郎 教授／

Kentaro Murakami



1.「社会予防疫学」とは？

疫学は、健康状態や疾患発生を集団内で計量的に把握し、疾患発生リスクになりえる因子と疾患発生との関係を統計的に分析し、疾病予防や効率的な保健活動につなげる学問です。飲酒・喫煙、栄養や身体活動に加え、遺伝子や社会経済因子を対象とする疫学研究も盛んになっています。疫学は、研究方法論を提供するとともに予防保健を実践する実学として、健康科学の中心をなす分野です。

「社会予防疫学」は、疫学の手法を用いて人間社会で起こっているさまざまな現象（個人の生活習慣も含む）と健康関連の諸問題との関連を明らかにし、それを疾病予防・疾病コントロールに用いるための具体的な方策を探る学問です。

2.「栄養疫学」とは？

疫学研究のなかで、栄養や食べ物、食べ方など、「食」を扱った研究を、特に「栄養疫学」と呼びます。当研究室では「栄養疫学」を中心に研究を進めています。食事摂取状況の正確な記述、食事と疾病との関連の検討に加え、このような研究を実施する際に必要な調査方法論の研究、また、食事摂取基準等のガイドライン作成に必要なエビデンスの構築に特に力を入れています。

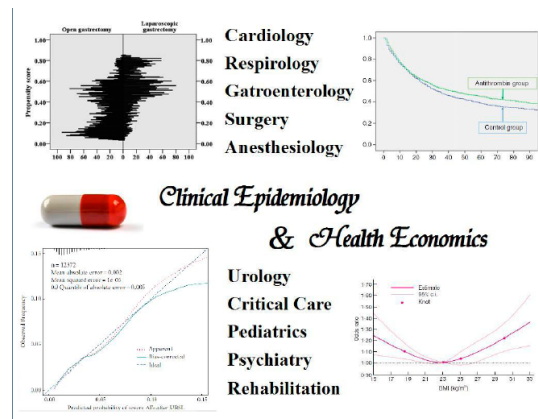
3.担当科目、課題研究テーマ

「疫学研究と実践」、「予防保健の実践と評価」を担当します。疫学研究には対象者の協力が不可欠であり、また研究の最終的な目標は疾病の予防と健康状態の向上です。そのための合意形成や情報のフィードバックに必要な知識・技術もここで学びます。学内外の実務家・研究者と協力して、進行中の疫学（特に栄養疫学）研究の実務作業に参加してもらい、それによって得られたデータを用いて課題研究を実施します。

"Social and preventive epidemiology" studies using epidemiologic methods the relationship between various phenomena occurring in human society and health problems, and explores strategies and methods for the prevention and control of diseases. This department focuses the research on "nutritional epidemiology", because nutrition is one of the most important and powerful modifiable factors for the prevention and control of disease.

康永 秀生 教授／Hideo Yasunaga

松居 宏樹 准教授／Hiroki Matsui



1.「臨床疫学・経済学」とは？

臨床疫学は、臨床の問題を扱うという点で極めて臨床的であると同時に、疫学的手法を用いるという点で極めて公衆衛生的です。医学の国際的潮流である EBM を実践する基盤となる学問領域として、その重要性は増大する一方です。

また、超高齢社会のもとでの医療資源の制約と医療の効率化の社会的要請を背景として、医療経済学の重要性はかつてないほど広く認識されるに至っています。

本学の公共健康医学専攻(SPH)における教育の目的は、専門性と公共性を兼ね備えた公衆衛生のプロを養成することです。中でも臨床疫学・経済学を実践する専門家の育成は国家的急務であるといえるでしょう。

2.担当科目、課題研究テーマ

臨床疫学研究のテーマは、日常臨床の中に潜んでいます。Clinical practice から research question を紡ぎ出し、研究仮説を立て、適切なデザインを構築し、利用可能なデータから意味のある分析結果を出し、臨床的に妥当な解釈を行います。臨床疫学講義では、これら一連のプロセスを遂行するために不可欠となる臨床疫学の

理論および実践的な方法論を身につけます。

保健医療経済学講義では、医療経済学の基礎を身につけた上で、医療経済学の考え方や理論について理解を深めてもらいます。医療技術評価学演習では、医療技術の有効性評価および費用効果分析について実践的な知識と技術を身につけます。

臨床疫学・経済学演習では、学生各人が具体的な臨床的関心あるいは公衆衛生的関心に基づき、研究の proposal writing ができる実践的なスキルを身につけます。さらに医学英語論文の書き方の基本を学びます。

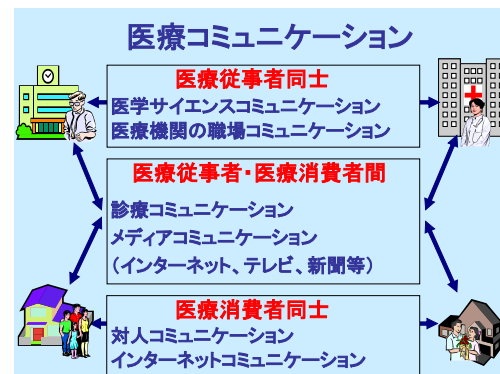
Clinical Epidemiology and Health Economics

Our department implements multidisciplinary studies on clinical epidemiology, health economics, and health technology assessment.

As SPH education programs, we are in charge of lectures for clinical epidemiology and health economics; seminars in health technology assessment; and seminars in study proposal and academic article writing.

木内 貴弘 教授/Takahiro Kiuchi

奥原 剛 准教授/Tsuyoshi Okuhara



1.「医療コミュニケーション学」とは？

医療コミュニケーション学とは、医療・公衆衛生領域におけるコミュニケーションを対象とした学問分野です。日本では、医療コミュニケーション学、医学コミュニケーション学等と呼ばれることが多いですが、英語圏では Health Communication という言葉がよく用いられます。

医療・公衆衛生の分野では、さまざまな場面でコミュニケーションが重要な課題として認識されるようになってきました。具体的なコミュニケーションの機会としては、1) 医療従事者・医療消費者間のコミュニケーション、2) 医療従事者間のコミュニケーション、3) 医療消費者間のコミュニケーションが主として考えられます。これらのコミュニケーションは、古くは対人で行われていましたが、現代では、各種のメディアを介したコミュニケーションも重要性が増しています。

2.担当科目、課題研究テーマ

医療コミュニケーション学講義、医療コミュニケーション学演習、医学研究と CDISC 標準を担当します。課題研究のテーマとしては、主として下記を考えていますが、医療コミュニケーション関連で自分のやりたいテーマがある場合には、是非ご

相談ください。

- ・ インターネットを介した各種コミュニケーションサービスの構築・運用・評価
- ・ マスメディア・インターネット等による健康・医療関連記事・番組等の分析・評価
- ・ 医学文献情報の分析と評価（サイエンスコミュニケーション）
- ・ エンターテインメント・エデュケーション
- ・ 患者-医療者間コミュニケーション
- ・ 患者・市民のヘルスリテラシーの評価と教育
- ・ 医療面接教育・コミュニケーションスキル評価

The Department of Health Communication offers courses and conducts research on various levels of communication in healthcare and public health contexts. Major research topics include online health information systems and services, mass media/internet communication, entertainment education, science communication, patient-provider communication, health literacy, communication skills training for healthcare professionals.

西 大輔 教授 / Daisuke Nishi

佐々木 那津 講師 / Natsu Sasaki



1. 「精神保健学」とは

公衆衛生における精神保健学 (Public Mental Health) は、21 世紀の重要な健康課題の 1 つである心の健康の理解とその保持増進のために、公衆衛生学に加えて、心理学・行動科学、精神医学、社会学などの学際的手法を利用し、研究と実践への応用を行う分野です。精神保健の課題は今日、うつ・自殺対策、周産期のメンタルヘルス、職場のメンタルヘルス、トラウマと災害精神保健、慢性精神障がい者のケア、国際精神保健等にまで広がっています。本分野では、精神疾患の地域疫学調査「世界精神保健日本調査サード」を実施し、世界 30 カ国との共同研究を行ったり、e ラーニングによる妊産婦のうつ病予防や労働者のウェルビーイングの向上に関する研究を進めています。研究成果は年間 40 – 50 編の英文原著論文として国際誌に公表されています。

2. 担当科目、課題研究テーマ

担当科目は、精神保健学 I (精神保健疫学の基礎から精神保健対策の立案を学ぶ)、精神保健学 II (トラウマティックストレス、周産期のメンタルヘルス、職場のメンタルヘルスの概要を学ぶ) です。課題研究についても、幅広いテーマについて相談にのることができます。大学院の修

了生は、行政・自治体、シンクタンク、大学・研究所で活躍しています。

3. 本分野の教育・研究活動の詳細

本分野についての詳細な情報や公表論文は、HP をご覧ください。

< <https://mhpn.m.u-tokyo.ac.jp/> >

本分野に関心のある方は西大輔教授まで遠慮なくご連絡ください。

メールアドレス d-nishi@m.u-tokyo.ac.jp

“Public Mental Health” is an interdisciplinary field within public health, which aims to understand the nature of and promote health in our mind, i.e., one of the most important health problems in 21st century. Members of Department of Mental Health conduct research of epidemiology of mental disorders in the community, prevention of depression, and others. The Department provides two classes: Mental Health I (from epidemiology to practice in mental health) and Mental Health II (traumatic stress, perinatal mental health, and occupational mental health). Please contact Prof Nishi at d-nishi@m.u-tokyo.ac.jp for more info.

橋本 英樹 教授／Hideki Hashimoto

高木 大資 講師／Daisuke Takagi

鎌田 真光 講師／Masamitsu Kamada



[まちと家族の健康]調査より

1.「保健社会行動学分野」とは？

保健社会学・老年社会科学を前身として、2012年に新たに始まった分野です。行動科学・心理学・社会学・経済学・疫学などの社会科学の理論や手法を組み合わせ、社会構造がひとびとの健康関連行動や健康生成に影響する機序を解明することが中心的研究課題です。社会的健康格差の解消に焦点をあて、福祉国家の実現に資する政策的エビデンス発信を心がけています。

当分野では社会的な困難を抱えたひとたちの健康・生活に焦点を当てつつ、地域における健康増進をテーマにした社会調査や政府統計を用いた研究に複数取り組んでいます。またコミュニティにおける社会的ネットワークが地域の安全安心や人々の健康関連行動に及ぼす影響、地域環境が人々の身体活動に与える影響や介入方法の開発、さらに慢性疾患を持って生活する人々が直面するスティグマに対する対抗手段の検討なども行っています。

2.担当科目、課題研究テーマ

健康社会学、健康教育学、社会と健康 I および II を担当します。健康社会学は、健康や病気の成り立ちを、社会的文脈の中で読み解

くために必要な理論を扱います。健康教育学ではマイクロ・マクロレベルでの健康行動理論と、実践応用について講義演習を通じて学びます。社会と健康 I では、健康増進に向けた包摂的社会的構築を阻む各種要因について検討し、II ではその課題解決に向けて小グループで模擬企画を立てることを通じて、健康を育む社会的取り組みの設計・評価に必要な実践的思考を促します。

課題研究のテーマは学生のバックグラウンドや興味に応じ、必ずしもファカルティの研究領域に限らず、適宜相談に応じます。手法論的には量的・質的研究、文献研究いずれにも対応しています。

The department intends to integrate health science (medicine and public health) and social science (economics, sociology, and psychology) to identify causal mechanism linking social structure and individual health for realizing health equity as a fundamental goal for human security. It offers four teaching courses on health sociology and education, and practicum focusing on social determinants of health in MPH program.

瀧本 禎之 准教授／

Yoshiyuki Takimoto

中澤 栄輔 講師／Eisuke Nakazawa



1.「医療倫理学」とは？

医療倫理学分野では、医療と公衆衛生に関わる政策決定や臨床現場での倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的理論の研究と教育活動を行なっています。主な研究テーマとしては、医療倫理学基礎論、倫理理論（規範理論およびメタ倫理）、政治理論、医療資源の配分、公衆衛生倫理、脳科学研究の倫理、再生医療研究の倫理、研究倫理一般、インフォームド・コンセント、守秘義務、情報開示、脳死・臓器移植、遺伝子医療、安楽死や人工妊娠中絶の倫理、臨床倫理コンサルテーション、臨床倫理一般などがあります。授業では、全体講義や文献講読のほか、グループ・ディスカッションや演習などにも重点を置いています。

2.担当科目、課題研究テーマ

医療倫理学 I では、公衆衛生領域の政策決定や臨床現場における倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方を学習します。医療倫理学総論・歴史、インフォームド・コンセント、研究倫理などを取り上げ、全体講義と少人数討論（ディベート）を行います。医療倫理学 II では、「医療倫理学 I」で扱った内容をさらに深く修得します。発展として公衆衛生、資源配分、臨床倫理コンサルテーション等に焦点を絞り、全体講義、少人数討論、重要文献の輪読と解説等を行い

ます。課題研究のトピックスとしては、判断能力、事前指示、安楽死、医療資源の配分、生体臓器移植、緩和ケア、ES/iPS細胞研究、生殖補助技術、人工妊娠中絶、エンハンスメント、遺伝子診断など様々です。医療倫理学分野では、医療系(医・歯学、看護学、薬学など)、哲学・倫理学をはじめ、社会学、心理学、法学、教育学、宗教学、歴史学、理学、工学などさまざまな学問的背景や実務経験を持った学生さんを歓迎しています。また、研究でも学際的アプローチを試みています。

In the department of biomedical ethics, we, teachers and graduate students, conduct researches and educational activities including the studies of philosophical and ethical theories, which help us to form our ethical judgments in medical practice and about policy decisions on medicine and public health. For instance, the main topics of our lectures range from foundations of medical ethics, ethical theories, public health ethics, neuroethics, ethics of regenerative medicine to clinical ethics, with group discussions and exercise lessons.

<医療倫理学分野のウェブサイト>

<http://www.ethps.m.u-tokyo.ac.jp/>

<http://cbel.jp/>

大西 弘高 講師／Hiroataka Onishi



1.「保健医療人材育成学」とは？

医学教育国際研究センターでは2015年度より公共健康医学専攻において授業や研究室配属を担当させていただくことになりました。多くの国で、保健・医療関連の人材育成は公衆衛生上の問題に対処するための重要な方策と位置づけられています。また、北米や英国連邦系の国々、あるいは東南アジア諸国などでは、医学教育・医療者教育を修得するための専門職修士課程も数多く、公衆衛生分野の専門職修士課程とも似た側面があります。

学問的基盤としては、学習・教育に関する理論、カリキュラム論、プログラム評価論、学習者評価、心理測定学（psychometrics）、組織管理学などが挙げられます。

2.担当科目、課題研究テーマ

担当科目は、保健医療人材育成学、プライマリ・ヘルス・ケア学の2つです。講義と共に毎回グループディスカッションを行い、各自の経験を学問的基盤によって説明できるようになっていただくことが大きな目標となります。

課題研究の対象には、多職種連携教育、学習が行われる場の分析、臨床実習・研修の改善、新たな臨床能力評価の開発などが含まれます。研究方法論には、成績データや質問紙調査などによる量的アプローチも重要ですが、様々な形

での質的アプローチや混合法も重視しています。近年、保健医療人材育成、医学教育、医療専門職教育といった領域における関連学会や専門誌は増えてきており、深めることができる内容は多岐にわたります。

なお、大西講師は国際保健学専攻の協力講座としての指導も行っており、英語でのゼミが開催されています。

3.本分野の教育・研究活動の詳細

さらに詳細な情報は、HPをご覧くださいか、メールでご質問ください。

<https://icme.m.u-tokyo.ac.jp/oonishihhh@gmail.com>

Department of Human Resource Development for Health offers two courses of (1) human resource development for health and (2) primary health care. We welcome students to conduct research in interprofessional work/education, clinical education system, and development of a new clinical assessment tool in fully English speaking environment.

東 尚弘 教授/Takahiro Higashi

稲田 晴彦 准教授/Haruhiko Inada



1.「健康医療政策学」とは？

健康医療政策学は、健康・医療領域の政策立案・決定の基礎となる科学的エビデンス構築に係わる調査・研究・実務を担当する領域です。本分野では、国内外の地域住民・行政・病院・患者関係者と連携をとりながら医療と社会の課題を同定し、現場と密接な連携をとりながらデータをもとに客観的な状況の把握、解決策の模索・提言を行います。特に、データ解析においては、その向こうに現実社会があることを常に意識しながら徹底的に議論する姿勢を重視しています。

具体的には、わが国の医療保険制度のもとのインセンティブ構造に基づく医療の効率性、公平性、健康アウトカムの分析や、レセプト、がん登録、診療録などの情報を活用した種々の傷病の頻度推計や医療の質の評価、さらに、マクロ的視点の研究課題として、医療従事者の将来需給や地理的・診療科別分布、医療アクセスの地域格差、産科医療補償制度に関連した脳性麻痺児の疫学、社会経済要因の中高年層への健康影響、地域・職域における生活習慣病・外傷予防の疫学などに取り組んでいます。

2.担当科目、課題研究テーマ

授業科目として、健康医療政策学、健康危機管理学、保健行政・健康危機管理学実習を担当しています。当研究室の教員は、大学院医学博士課程（社会医学専攻）、並びに医学部医学科の公衆衛生学を兼任しています。

Our research activities focus on the topics of health care system and economics in general. We have performed and published those studies related to health services, such as quality of care, supply and distribution of physicians, access to health care, and the efficiency and equity issues of Japan's health system as well as universal health coverage system. We also conduct epidemiological studies on non-communicable diseases, such as cancer, cardio-cerebrovascular diseases, and injuries.

In the MPH program, we offer three courses: “Health Policy”, “Public Health Preparedness”, and “Public Health Practice”.

Please visit our website for more details.
<<http://publichealth.m.u-tokyo.ac.jp/>>

小山 博史 教授／
Hiroshi Oyama

河田 人美 助教／
Hitomi Kawata



H29年度卒業生

1.「臨床情報工学」とは？

臨床情報工学教室の目標は、公衆衛生活動への情報工学技術の応用に関する研究と教育を行い、優秀な人材を育成することです。特に、情報システム的设计や開発方法論、評価法、VR アプリやコンピュータグラフィックス技術を用いたアプリケーション開発やビッグデータを用いる際に必須となる機械学習や人工知能技術の医療応用に関する知識と技術を有する次世代のデータサイエンティストとなる人材育成と研究に力を入れています。

The purpose of the Department of Clinical Information Engineering is to nurture talented people who have special knowledge and skills at an international level in order to apply advanced information technologies to practical projects in public health. It offers courses on information system design, development methodology, evaluation and project management in biomedicine, health care and public health in the School of Public Health, and data mining and virtual reality.

2.担当科目、課題研究テーマ

公共健康情報学（講義・実習）を担当します。課題研究のテーマとしては以下のものが挙げられますが、学生のバックグラウンドに応じて下記のテーマ以外についても可能な場合もありますので相談してください。

- 1) Public Health Informatics に関する研究
 - ・ 先端的情報技術（例：AI や Blockchain 等）の公共健康医学への応用に関する研究
- 2) 医療への VR 技術応用に関する研究：
 - ・ 医学・看護教育訓練システムの研究開発
 - ・ 仮想体験の脳活動に与える影響に関する研究

Our research covers the biomedical computer applications that focus on biomedical data (collection, analysis, and representation). Our laboratory is engaged in the following research activities:

- 1) Research on Public Health Informatics
- 2) Research on VR technology application to medical care

大江 和彦 教授/Kazuhiko Ohe
 脇 嘉代 准教授/Kayo Waki
 今井 健 准教授/Takeshi Imai
 河添 悦昌 特任准教授/
 Yoshimasa Kawazoe
 横田 慎一郎 講師/Shinichiro Yokota
 新 秀直 講師/Hidenao Atarashi
 井田 有亮 講師/Yusuke Ida

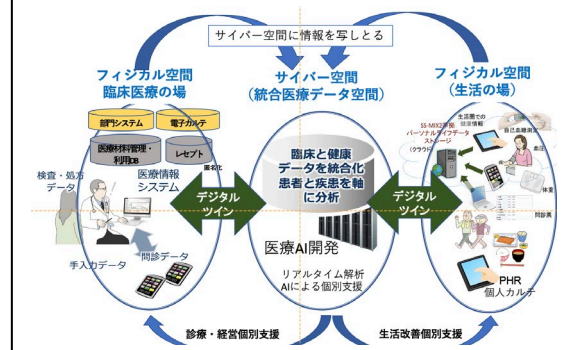
1.「医療情報システム学」とは？

医療・医学においては、診療情報の電子データ蓄積、IoT（Internet of Things）やウェアラブル機器による生活圏での健康情報収集など、膨大な生活医療データの蓄積が始まっています。このビッグデータを解析して新たな知見を生成し、人工知能（AI）技術、特に生成系AIを活用して、医療・医学の新たな発展に貢献し、医療変革いわゆる医療DXを実現することが、医療情報システム学の目標です。

そのためには、蓄積される電子データを適切なデータ形式にすること、多施設からのデータを統合解析できるようにデータの標準化を実現することなどが求められます。また、電子カルテの自然言語（文章）データの解析や、ゲノム情報と診療情報との統合解析などの新しい手法の開発も必要です。

また、診療では患者から得られる大変多くの診療情報を総合的に分析して意思決定をし、診療（診断、検査、治療）を行います。この診療の過程、つまり診療という医療者の高度な知的活動そのものを、IT(情報技術)で支援し、コンピュータシステムにより効率化することも医療情報学の目標です。

医療デジタルツインの構築に向けて



2.担当科目、課題研究テーマ

医療情報システム学（講義・実習）を担当します。主なテーマは、電子カルテシステム（EHR）における情報表現の標準化の研究、臨床医学知識の計算機モデルや知識活用に関する研究、機械学習や大規模言語モデル LLM などの医療への応用、モバイル医療、特に生活習慣病の自己管理などです。詳しくは <http://www.m.u-tokyo.ac.jp/medinfo/> も参照してください。

There is a growing accumulation of extensive health data, including electronic health records (EHRs), IoT devices, and wearable technology. Medical informatics aims to harness this big data using AI, particularly generative AI, to advance healthcare and achieve digital transformation (DX). This involves standardizing data formats, developing new data analysis methodologies, and utilizing IT for healthcare decision support. The department specializes in EHR standardization, clinical knowledge computer models, machine learning in healthcare, data management, and mobile healthcare for lifestyle diseases and genomic medicine.

楨野 陽介 教授 / Yohsuke Makino



1. 法医学とは？

法医学は法が適正に執行されるために医学的に何ができるかを考え、実践する学問であり、国民の権利を守る医学であるといつてよいだろう。古典的には、解剖及び薬毒物検査等の諸検査を通して、死因を極力正確に判定することで、犯罪見逃しの防止、事故再発の抑止に資し、それによって国民の権利維持を行ってきた。近年においては、死因究明のみならず、虐待を受けた小児等の診察を行うなど生体への関与も法医学の行うべき活動とされるようになってきている。

2. 担当科目、課題研究テーマ

法医学・医事法の講義・演習を担当している。

当教室では、千葉大学と連携し、死因究明に関する業務や被虐待児童の生体診察等の業務を行っている。死因究明に関しては、旧来から行われてきた、解剖及び組織学的検索のみでなく、危険ドラッグ等も含む薬毒物検査や、死後CT検査等も行っている。研究面に関しては、LC-MS等を用いた薬毒物検査法の開発に関する研究や、CT検査を用いた死因診断法の研究、身元特定方法の開発に関する研究などを行っている。また、死因特定において得られる様々な検査データについてのデータベースを構築し、それを利用した研究も行っている。

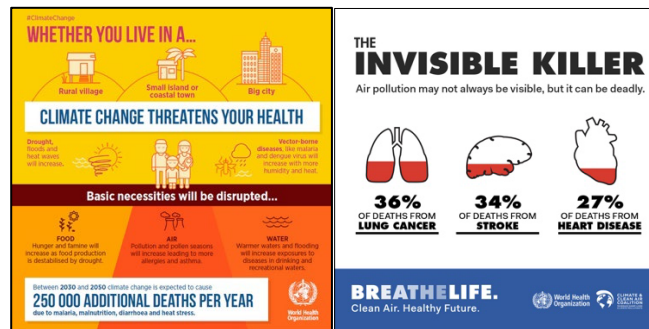
課題研究のテーマについては、こうした当教室で実施している業務及び研究をベースに、学生の要望を聞きながら設定する予定である。

Forensic medicine is an academic discipline that thinks about what medicine can do for the law to be properly used.

In collaboration with Chiba University, we conduct death investigations and physical examinations for children suspected abuse (clinical forensic medicine). Regarding the death investigation, we are performing not only conventional anatomical and histological examinations, but also toxicological examinations even covering new psychoactive drugs and postmortem CT scans. We are conducting research related to these relatively new death investigation methods. In addition, we have constructed a database on various examinations obtained in our death investigation practices and performing various researches using it.

金 允姫 准教授／

Yoonhee Kim



Climate Change, Air Pollution, and Human Health (infographics by WHO)

Introduction of faculty

The Department of Global Environmental Health (GEH) aims to study the relationships between the environment and human health and to produce well-educated professionals with the ability to undertake epidemiological research.

Research

Our research interest includes climate change and variability, air pollution, and human health across multiple countries in environmental epidemiology. We address the scientific questions on how environmental factors are associated with health outcomes and potential socio-economic determinants, modifying exposure-response associations.

GEH has multiple collaborations with both domestic and international colleagues. Ongoing projects we are involved in include 1) Health Risk Assessment of Climate Change and Air Pollution, 2) Global Perspectives of Seasonal Changes of Suicide and Associations between Suicide and Environmental Stressors, and 3) Generating

baseline evidence on climate change impacts on human health in the selected Pacific Island countries.

Education

GEH provides two postgraduate courses: 1) Environmental Health and 2) Methods for Environmental Health Research. The former is an introductory course in environmental epidemiology that introduces basic concepts and methods to assess the relationship between environmental stressors and health. The latter is to introduce statistical and epidemiological methods in environmental epidemiology.

Master thesis research topics

Students in GEH are expected to develop their research topics, primarily focusing on health risk assessment for climate change and outdoor air pollution, e.g., investigating an association between mortality/morbidity and weather factors or air pollutants using single- and multi-country data.

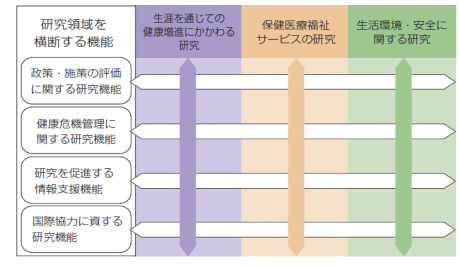
Find more information at our website.

<https://sites.google.com/m.u-tokyo.ac.jp/en/vhealth>

福田 敬 連携准教授／Takashi Fukuda

国立保健医療科学院における調査研究の基本的な考え方

取り組みを進める2大研究課題 ○少子・高齢社会の進展に対応した健康確保
○健康に関する安全・安心確保



National Institute of Public Health, Japan

1.「保健医療科学」とは？

「保健医療科学」講座は国立保健医療科学院との連携講座です。国立保健医療科学院は、保健、医療、福祉及び生活環境に関する厚生労働行政施策の推進を図るため、地方自治体職員等の人材育成を実施するとともに、これらに関する調査及び研究を行っています。これらを通じ、わが国の公衆衛生の向上に寄与することが使命です。主に「生涯を通じての健康増進に関わる研究」「保健医療福祉サービスに関する研究」「生活環境・安全に関する研究」の3分野について研究活動に取り組んでいます。

保健医療科学連携講座では、厚生労働行政に資する施策のうち、とくに保健医療事業の経済的評価とその政策応用に関する研究に取り組みます。国民医療費が増加を続ける要因として、人口の高齢化だけでなく、医療技術等の進歩が挙げられます。もちろん技術進歩により延命できたり、QOL が改善したりといった多くのメリットがあります。一方、これにより医療費が増え続けると、国民皆保険制度を維持していくためには、より効率的な医療提供を考える必要があります。その一つの考え方が、保健医療の経済的評価とその応用です。対象としては、医薬品・医療機器・医療技術といった保険診療における技術に加え、

保健指導やワクチン接種、がん検診といった予防施策、さらに介護等も範疇に入ります。

2.担当科目、課題研究テーマ

保健・医療・介護等の費用対効果の評価とその政策応用に関する研究を課題研究のテーマとします。この中には分析手法に関する研究や諸外国の制度に関する研究なども含まれます。

3.本分野の教育・研究活動の詳細

国立保健医療科学院に関する詳細についてはHP<<https://www.niph.go.jp>>をご覧ください。また本講座での研究にご関心がある方は福田までご連絡ください。

(fukuda.t.aa@niph.go.jp)

Department of Public Health Science is a collaborating unit with the National Institute of Public Health (NIPH). NIPH implements training for local government employees, etc. and related surveys and research.

Main research topic of the department is economic evaluation of health care and its application to the health policy.

教育課程等の概要

(2024.4.1 現在)

教育課程等の概要									
(医学系研究科公共健康医学専攻)									
科目区分	授業科目の名称	単位数		授業形態			専任教員等の配置		
		必修	選択	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師
疫学保健学系科目	疫学研究と実践[必修*1]	2		○			1		
	予防保健の実践と評価		2	○			1		
	医学データの統計解析	2		○			1		
	医学統計学演習		2		○			1	
	医学研究のデザイン[必修*1]	2		○			1		
	臨床疫学		2	○			1		
	臨床疫学・経済学演習		2		○		1		
	保健医療経済学	2		○			1		
	医療コミュニケーション学	2		○			1		
	医療コミュニケーション学演習	2			○		1		
	医療技術評価学演習	1			○		1		
	医療経営学演習	2			○		1		
	臨床医学概論	1		○			1		
	医学研究とCDISC 標準	1		○			1		
がん疫学	1		○			1			
小計 (15 科目)	6	20				6	1		
行動社会医学系科目	精神保健学 I [必修*2]	2		○			1		
	精神保健学 II		2	○			1		
	健康教育学[必修**2]	2		○			1		
	健康社会学		2	○			1		
	医療倫理学 I [必修*3]	2		○			1	1	
	医療倫理学 II		2	○			1	1	
	社会と健康 I [必修*3]	2		○			1		1
	社会と健康 II		2	○			1		1
	産業保健の理論と実践 [必修*5]	2		○			1		
	保健医療人材育成学		2	○					1(1)
	プライマリヘルスケア学		2	○					1(1)
日本の医療と地域保健		1	○			1			
小計 (13 科目)	10	13				3	2	1(1)	
医療科学系科目	健康医療政策学[必修*4]	2		○			1		
	医療情報システム学[必修*4]	2		○			1(1)		
	医療情報システム学実習		1			○	1(1)		
	法医学・医事法学[必修*3]	2		○			1	1	
	法医学・医事法学演習		2		○		1	1	
	健康危機管理学		1	○			1		
	保健行政・健康危機管理学実習		2			○	1		
	環境健康医学 [必修*5]	2		○				1(1)	
	環境健康医学研究方法論		2	○				1(1)	
	公共健康情報学	2		○			1		
	公共健康情報学演習	2		○		○	1		
アジア諸国における比較医療制度論	2		○			1			
小計 (12 科目)	7	10.5				5(1)	2(1)		
共通科目	インターンシップ		2			○	1		
	公共健康医学特論		2	○			10	6(3)	
	課題研究	6			○		10(1)	6(3)	1(1)
小計 (3 科目)	6	4				10(1)	6(3)	1(1)	
合計 (43 科目)		29	50.5				10(1)	6(3)	1(1)

※ ()内は兼任教員等を示し、内数である

学位又は称号	公衆衛生学修士（専門職）	学位又は学科の分野	公衆衛生学
卒業要件及び履修方法		授業期間等	
(1) 標準修業年限 2 年 (2 年コース) の場合 必修科目及び選択科目を 30 単位以上履修することとし、必修科目は 6 科目 11 単位または 12 単位及び課題研究 6 単位を履修する。 (2) 標準修業年限 1 年 (1 年コース) の場合 1 年間で必修科目及び選択科目を 30 単位以上履修することとし、必修科目 は 6 科目 11 単位または 12 単位を履修し、課題研究は選択科目とする。 ※ (1) (2) とともに必修科目のうち、*印のあるものについては、同じ番号を付 された授業科目から 1 科目履修すればよい。		1 学年の学期区分	4 期
		1 学期の授業時間	13 週
		1 時限の授業時間	105 分

授業科目概要について

授業科目の名称	講義等の内容	単位数
疫学研究と実践	疫学研究方法論の基礎を講義すると同時に、実践する際の問題点とその克服について、事例研究（ケーススタディ）を通じて学ぶ。主な内容は以下の通り：疫学的思考、因果関係の立証、疾病発生の把握と信頼性の確保、疫学研究デザイン入門、バイアスと誤差的バラツキ、バイアスとくに交絡の制御、統計解析の役割、研究倫理と同意・個人情報保護、遺伝疫学、研究成果のフィードバックと予防保健など。	2
予防保健の実践と評価	職域・地域などをフィールドとして、健診結果や疫学研究の成果を成員にフィードバックすることにより予防保健につなげる実践活動について、主に事例研究（ケーススタディ）を通じて学ぶ。主な内容は以下の通り：健康目標の設定とその評価、実施組織の構築と役割・費用分担、成員の合意形成と情報のフィードバック・コミュニケーション、プライバシーと個人情報保護、職域保健活動の事例（産業医の役割）、地域保健活動の事例（保健師の役割）など。	2
医学データの統計解析	医学研究のデザイン、統計的仮説検定と信頼区間、サンプルサイズ設計、分割表データの解析、回帰と相関、層別解析、モデルに基づく解析、生存時間解析、多変量解析諸手法などについて教え、医学データの統計解析に必要な基礎知識、ならびに応用能力を身に付けさせる。	2
医学統計学演習	「医学データの統計解析」で講義された主要な統計手法について、実例を用いて統計解析ソフト JMP で演習を行う。その後、各グループで探索的な研究仮説を検討したのち、eStat(http://www.e-stat.go.jp/)にて公開されている公的データを利用して JMP を用いた解析を実施し、解析結果の発表を行い結果の提示方法を学ぶ。	2
医学研究のデザイン	疫学・臨床試験のデザインと実際の研究運営についての講義・演習を行う。主要雑誌に掲載される論文について、特にデザインについて理解するための基礎知識を習得し、共同作業でプロトコルを策定できる能力並びに研究事務局に参画するために必要とされる能力を磨くことを目指す。主な内容は以下の通り：研究デザインの分類と特徴、プロトコルの作成、医薬品の承認審査、品質管理と品質保証、データマネジメント、論文作成と CONSORT・STROBE 宣言など。	2
臨床疫学	臨床疫学研究のテーマは、日常臨床の中に潜んでいる。Clinical practice から research question を紡ぎ出し、研究仮説を立て、適切なデザインを構築し、利用可能なデータから意味のある分析結果を出し、臨床的に妥当な解釈を行う。これら一連のプロセスを遂行するために不可欠となる臨床疫学の理論および実践的な方法論を身につける。	2
臨床疫学・経済学演習	学生各人が、具体的な臨床的関心あるいは公衆衛生学的関心に基づき、文献検索と仮説構築を行い、研究の proposal writing（研究の背景と目的の提示、データ収集の定式化並びに分析計画、研究費の予算書作成など）ができる実践的なスキルを身につける。さらに医学英語論文の書き方の基本を学ぶ。	2
保健医療経済学	医療経済学の基礎知識を身につけるとともに、実証的な医療経済学分析の方法論についての基本を学ぶ。さらに医療経済学の考え方に沿って、現実の医療経済政策における個別の課題について考察する力をつける。	2

授業科目の 名称	講義等の内容	単位 数
医療コミュニ ケーション学	臨床現場における対人コミュニケーションからメディアによるコミュニケーションまで、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の領域を概観し、その基礎的な理論と実践を体系的に学習する。ヘルスコミュニケーションにおける理論体系、実践的方法論、コミュニケーションの評価・分析方法等を取り扱うとともに、ヘルスコミュニケーションの具体的な実践例の紹介と分析も行う。	2
医療コミュニ ケーション学 演習	医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の実践に必要な演習を行うことによって、「医療コミュニケーション学」の講義で学んだ様々な理論や実践方法論に対する理解を深めるとともに、具体的な医療コミュニケーションの場（医療機関、官公庁、教育機関、研究機関、患者支援組織、マスコミ等）でこれらを生かすことができるようにすることを目的とする。	2
医療技術評 価学演習	医療技術評価の基本を身に着ける。費用効果分析のための臨床アウトカム及びコスト情報の収集、QOL 評価、決定樹・マルコフモデルの作成、費用対効果の算出、感度分析などの一連の医療経済評価手法を学ぶ。	1
医療経営学 演習	2024 年度は不開講	2
臨床医学概 論	非医師の学生向け。臨床医学に関する基礎知識を身に着ける。医学用語を習得し、医学論文を読むための基礎力を養う。	1
医学研究デ ータマネジメ ントと CDISC 標準	本講義では、CDISC (Clinical Data Interchange Consortium) 標準についての概要を解説する。CDISC 標準は、日本、米国、EU において、規制当局への新薬治験データの申請のデータ標準として採用されることが決まっており、治験以外の一般の医学研究のデータ収集、データ交換、アーカイビング等のためにも世界中で幅広く活用されると予想されている。	1
がん疫学	「がんの疫学」について、専門家として必要な知識を体系的に習得する。集団レベルでのがんの予防をめざすには、その背景にあるがんの地理的分布や推移を把握した上で、予防に向けた要因の解明が必須である。具体的には、がん記述統計の必須基盤としてのがん登録手法、がんの要因を解明するための分析疫学研究、一つ一つの疫学的エビデンスを施策に結びつけるための橋渡し研究であるシステムティック・レビューやメタ・アナリシス、統合解析、エビデンスに基づくがん予防法やがん検診の考え方について、国内外の状況や事例も網羅して、系統的に学ぶ。	1
精神保健学 I	わが国と世界の精神疾患の疫学、精神健康評価の方法論、科学的根拠に基づいた精神保健の第一次、第二次、第三次予防の方法論について学ぶ。グループのメンバーとの協働およびリーダーシップのあり方についても学びつつ、課題に即した精神保健対策を立案する演習を行う。	2
精神保健学 II	精神保健の中でも重要なテーマであるトラウマティックストレス、周産期メンタルヘルス、職場のメンタルヘルスについての知識・技術を講義および討論によって習得することを目的とする。トラウマインフォームドケアや、周産期精神保健および産業精神保健における具体的な対策を公衆衛生の専門家として提案・実践・推進する能力を養成することを旨とする。	2
健康教育学	本講義の前半では、健康関連行動に関するマイクロならびにマクロレベルの理論を系統的に紹介し、これらの理論の背景となる人間像や社会観を批判的に読み解くとともに、それぞれの長所・限界点を議論していく。後半は地域・職場・学校などの具体的な場において展開する「健康づくり」活動についてディスカッションを通じて理解を深めるとともに、理論と実践の溝を埋める作業を促す。	2

授業科目の名称	講義等の内容	単位数
健康社会学	医学的な視座を相対化し、健康・疾病・医療・公衆衛生が社会においていかなる意義・役割・機能を有しているのかを再検討するための素地として、社会学の諸理論のうち医学・保健に関するトピックを取り上げる。	2
医療倫理学 I	公衆衛生領域の政策決定や臨床現場における倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方を教える。医療倫理学総論・歴史、インフォームドコンセント、研究倫理などを取り上げ、全体講義と少人数討論（ディベート）を行う。	2
医療倫理学 II	「医療倫理学 I」で扱った内容をさらに深く教授する。発展として公衆衛生、資源配分、臨床倫理コンサルテーション等に焦点を絞り、全体講義、少人数討論を行う。	2
社会と健康 I	教育・経済状況（貧困）・社会的孤立・住環境・就労環境・社会的ネットワークなど、健康に影響を与える社会的な要因（Social Determinants of Health: SDH）について、その理論的背景・実証研究・現時点の実証および実践上の課題について鳥瞰する。	2
社会と健康 II	「社会と健康 I」で学んだ知識をベースに、社会環境にアプローチする健康格差対策の進め方について実践的に学ぶ。既存の実践理論モデル、介入、政策の事例を紹介し、その利点、欠点を考察する。初回講義で各人にテーマを割り振り、順次発表してもらい、ディスカッションする。	2
産業保健の理論と実践	産業保健について最近の動向と国際的視点についてのアップデートな情報を教授すると同時に、事例分析や演習を通じて産業保健を職場で遂行するための実践的技術の基礎を習得する。	2
保健医療人材育成学	保健・医療分野の人材育成（human resource development for health, health professional education）について、教育や学習に関連した理論に基づいて、全体講義と少人数講義を通して学ぶ。	2
プライマリヘルスケア学	プライマリヘルスケアおよびその医療的側面であるプライマリケアを取り上げ、公平性、住民中心、地域リソースとの協働、予防活動重視といった基盤的保健・医療サービス、社会保障制度について学ぶ。	2
日本の医療と地域保健	2024年度は不開講	1
健康医療政策学	疾病予防対策、医療保険制度、医療提供体制、医療評価など、種々の健康・医療に関わる制度・政策の背景並びに立案・実施、報道、社会への影響について、様々なステークホルダーの立場、関連の法令、費用負担のあり方などを学習するとともに、事例（ケース）を通じて実際を理解する。	2
医療情報システム学	医療におけるデータ管理、データのコード化と分類、情報技術の基礎と標準化、データ処理技法、医療情報システムとネットワーク技術の基礎と運用、医療における情報保護やセキュリティ、医療情報システムの管理などについて講義する。	2
医療情報システム学実習	医療におけるデータ管理とデータのコード化手法、データ処理技法、データベース設計手法などを臨床症例データベースを実際に試作することを通して実習する。また暗号化や簡単な AI 技術についても実データを処理することで学習する。	1
法医学・医事法学	日本及び諸外国における法医学、特に、死因究明制度、児童虐待、生体における証拠保全等について、現状及びその問題点を中心に講義を行う。	2

授業科目の 名称	講義等の内容	単位 数
法医学・医 事法学演習	2024 年度は不開講	2
健康危機管 理学	新興・再興感染症等のアウトブレイクや大規模災害など様々な健康危機の事例、健康危機突発事の原因同定と対応策、平時におけるサーベイランスについて学習するとともに、事例を用いて健康危機管理に必要な疫学調査法の基本を習得する。	1
保健行政・ 健康危機管 理学実習	原因不明の健康危機事例やその他の保健行政に関して、各種疫学指標の算出、原因に関する仮説の構築、現実的な対応策の立案及びその実施と評価、対策実施に関わる組織・態勢のマネジメントなどについて、保健行政の現場に身をおき、保健所長などの各種専門職の役割を理解しながら、健康危機管理やその他の保健行政の基本的対応を身に付ける。	2
環境健康医 学	この授業は学生に、環境要因がどのように個人および集団レベルで人の健康に影響するかについての環境健康医学の視点を与える。学生は環境曝露要因と健康影響を評価するための基本概念と方法を理解する。授業の中で、健康と関連する具体的な環境要因（大気汚染、水質汚染、天候・気候変動）に関する研究を網羅し、議論する予定である。	2
公共健康情 報学	公共健康医学分野における情報処理の基礎を習得する。特に地理情報システム、感染症サーベイランスシステム、疾患登録システムと関連する情報処理技術に重点を置く。	2
公共健康情 報学演習	R を用いた地理情報システムを例に公共健康情報処理に必要な情報処理技術を身に付ける。	2
環境健康医 学研究方法 論	この授業は学生に、環境要因の健康への急性影響を研究する先進的な研究方法論を紹介する。授業は、過去 20 年の間に環境疫学の領域で広く利用され、重点的に発展してきた基本概念、研究デザインおよび時系列データを用いた統計学的回帰モデルを提供する。学生は時系列データと回帰モデルを解釈し、R を用いたハンズオン演習からこれらの方法論を応用するスキルを得ることができる。	2
アジア諸国に おける比較医 療制度論	2024 年度は不開講	2
インターンシ ップ	公衆衛生の現場（公衆衛生関連の試験研究機関・シンクタンク・非営利団体等、医療機関）などに身を置いて、実務の中から、自ら取り組むべき課題を見つけ、分析を行い、対策を立案する能力を身に付ける。	2
公共健康医 学特論	公共健康医学専攻の全分野から、それぞれ公共政策・活動との接点となる具体的取り組み事例や課題をテーマとして取り上げ、公共の厚生に資する健康科学のあり方と、その研究・実践上の克服すべき課題について、理解を深める。	2
課題研究	指導教員のもとで、特定の研究課題について現地調査（フィールドワーク）、資料収集、分析・統計解析、論文作成などの実践を通して、高度な問題解決能力を身に付ける。	6

2011年度～2023年度 受験・合格者状況

2010年8月実施入試の結果

受験者数		83	(4)
合格者数		33	(2)
	内訳：	1年コース	12 (0) うち医師 11 (0)
		2年コース	21 (2) うち医師 3 (0)
2011年度合格者合計		33	(2)
2011年度入学者合計		31	(2)

2011年8月実施入試の結果

受験者数		84	(5)
合格者数		32	(2)
	内訳：	1年コース	13 (0) うち医師 13 (0)
		2年コース	19 (2) うち医師 2 (0)
2012年度合格者合計		32	(2)
2012年度入学者合計		30	(2)

2012年8月実施入試の結果

受験者数		103	(1)
合格者数		35	(0)
	内訳：	1年コース	13 (0) うち医師 12 (0)
		2年コース	22 (0) うち医師 6 (0)
2013年度合格者合計		35	(0)
2013年度入学者合計		32	(0)

2013年8月実施入試の結果

受験者数		102	(5)
合格者数		33	(1)
	内訳：	1年コース	12 (0) うち医師 10 (0)
		2年コース	21 (1) うち医師 2 (0)
2014年度合格者合計		33	(1)
2014年度入学者合計		30	(0)

2014年8月実施入試の結果

受験者数		91 (8)
合格者数		32 (3)
	内訳：	
	1年コース	12 (0) うち医師 11 (0)
	2年コース	20 (3) うち医師 7 (1)
2015年度合格者合計		32 (3)
2015年度入学者合計		29 (3)

2015年8月実施入試の結果

受験者数		77 (3)
合格者数		33 (3)
	内訳：	
	1年コース	12 (1) うち医師 7 (1)
	2年コース	21 (2) うち医師 6 (0)
2016年度合格者合計		33 (3)
2016年度入学者合計		32 (3)

2016年8月実施入試の結果

受験者数		92 (3)
合格者数		34 (0)
	内訳：	
	1年コース	12 (0) うち医師 11 (0)
	2年コース	22 (0) うち医師 7 (0)
2017年度合格者合計		34 (0)
2017年度入学者合計		33 (0)

2017年8月実施入試の結果

受験者数		104 (5)
合格者数		32 (2)
	内訳：	
	1年コース	12 (1) うち医師 11 (1)
	2年コース	20 (1) うち医師 5 (0)
2018年度合格者合計		32 (2)
2018年度入学者合計		31 (2)

2018年8月実施入試の結果

受験者数		88 (5)
合格者数		31
	内訳：	
	1年コース	10
	2年コース	21
2019年度合格者合計		31
2019年度入学者合計		30

2019年8月実施入試の結果

受験者数		111 (6)
合格者数		36 (3)
	内訳：	
	1年コース	9
	2年コース	27 (3)
2020年度合格者合計		36 (3)
2020年度入学者合計		33 (3)

2020年8月実施入試の結果

受験者数		180 (6)
合格者数		36 (1)
	内訳：	
	1年コース	11
	2年コース	25 (1)
2021年度合格者合計		36 (1)
2021年度入学者合計		34 (1)

2021年8月実施入試の結果

受験者数		69 (4)
合格者数		34 (2)
	内訳：	
	1年コース	12 (1)
	2年コース	22 (1)
2022年度合格者合計		34 (2)
2022年度入学者合計		30 (2)

2022年8月実施入試の結果

受験者数		91 (7)
合格者数		36 (5)
	内訳：	
	1年コース	5
	2年コース	31 (5)
2023年度合格者合計		36 (5)
2023年度入学者合計		35 (5)

※ カッコ () 内は外国人の内数

公衆衛生学に関する博士課程について

東京大学大学院医学系研究科の中には、公衆衛生学に関する以下の博士課程があります。

公衆衛生学を専門に学び博士の学位の取得を希望する場合には、公共健康医学専攻（専門職学位課程）を修了後に、これらの大学院に進学することができます。公共健康医学専攻（専門職学位課程）の教員がこれらの博士課程の教員を兼ねている場合も多く、その場合には専門職学位課程から博士課程にかけて連続的に教育を受けることができます。

○社会医学専攻 医学博士課程

教育研究上の目的	社会医学専攻においては、人間集団を対象として、環境、社会および情報等の観点から、疾病の原因究明、疾病の予防および健康の増進に寄与する最先端研究を推進するとともに、社会医学を構成する諸分野の中核を担う人材を養成することを目的とする。 (医学系研究科ウェブサイトから)
修業年限、学位	社会医学専攻は4年生の医学博士課程であり、修了すると博士（医学）が授与されます。
募集人員	14名
主な出願資格	・大学の医学、歯学、薬学又は獣医学を履修する6年の課程を卒業（卒業見込） ・大学院修士課程・専門職学位課程を修了（修了見込） ・外国において、学校教育における18年の課程（最終の課程は医学、歯学、薬学又は獣医学）を修了（修了見込） ※出願資格については、各年度の募集要項にて確認すること。
分野（担当教員）	SPH 関連分野としては以下のとおり 公衆衛生学分野（東 尚宏教授、稲田 晴彦准教授） 法医学分野（槇野 陽介准教授） 医療コミュニケーション学分野（木内 貴弘教授、奥原 剛准教授） 臨床疫学・経済学分野（康永 秀生教授） 社会予防疫学分野（村上 健太郎教授） 精神保健学分野（西 大輔教授） 保健社会行動学分野・健康教育社会学（橋本 英樹教授） 医療倫理学分野（瀧本 禎之准教授） がん疫学分野（連携）（井上 真奈美連携教授） ※2024年度は、以下の2分野は教授退官が見込まれるため博士学生の受付を行っていません 医療情報学分野（大江 和彦教授） 准教授レベルでの相談応 臨床情報工学分野（小山 博史教授）
専攻ウェブサイト	http://www.m.u-tokyo.ac.jp/departments/graduateschool.html 「社会医学専攻」の情報をご覧ください。
学生募集要項について	http://www.m.u-tokyo.ac.jp/daigakuin/apply/appguidemain.html 「医学博士課程」の情報をご覧ください。

○健康科学・看護学専攻 博士後期課程（パブリックヘルスプログラム）

教育研究上の目的	<p>健康科学・看護学専攻は、看護学系講座（予防看護学講座、臨床看護学講座）と健康科学大講座とからなる。本専攻は、出生前から人生の最期に至るまで、ライフサイクルの各期に応じた発達支援・健康増進、疾病の予防と回復、支援環境整備に寄与する研究を推進する。同時に、これらの課題を研究し、改善していける教育・研究者ならびに高度専門職業人を育成することを目的とする。（医学系研究科ウェブサイトから）</p> <p>注：健康科学・看護学専攻博士後期課程は、パブリックヘルスプログラム（健康科学講座）と看護学講座から構成されています。パブリックヘルスプログラムでは公衆衛生学（公共健康医学）に関する教育研究を行います。</p>
修業年限、学位	健康科学・看護学専攻博士後期課程は 3 年制の大学院であり、修了すると博士（保健学）が授与されます。
募集人員	10 名（看護学講座と合わせて 25 名）
主な出願資格	<p>大学院修士課程を修了（修了見込）</p> <p>※出願資格については、各年度の募集要項にて確認すること。</p>
分野（担当教員）	<p>医療倫理学（瀧本 禎之准教授）</p> <p>健康学習・教育学、健康社会学（橋本 英樹教授）</p> <p>精神保健学（西 大輔教授）</p> <p>生物統計学（松山 裕教授）</p> <p>疫学・予防保健学（松山 裕教授（兼）、大庭 幸治准教授）</p> <p>社会予防疫学（協力講座）（村上 健太郎敏教授）</p> <p>保健医療情報学（協力講座）（木内 貴弘教授）</p> <p>※2024 年度は、大江 和彦教授は新規の博士学生を受け付けていません。</p> <p>精神保健政策学（連携講座）（金 吉晴連携教授）</p>
専攻ウェブサイト	<p>http://hsn.m.u-tokyo.ac.jp/</p> <p>http://www.m.u-tokyo.ac.jp/departments/graduateschool.html</p> <p>「健康科学・看護学専攻」の情報をご覧ください。</p>
学生募集要項について	<p>http://www.m.u-tokyo.ac.jp/daigakuin/apply/appguidemain.html</p> <p>「博士後期課程」の情報をご覧ください。</p>

Faculty members (as of Apr 1, 2024)

Division	Department	Professor	Associate professor	Lecturer
Epidemiology and Health Sciences	Biostatistics	Yutaka Matsuyama Daisuke Koide+	Koji Oba*	
	Social and Preventive Epidemiology	Kentaro Murakami		
	Clinical Epidemiology and Health Economics	Hideo Yasunaga	Hiroki Matsui Yusuke Sasabuchi+ Shotaro Aso+	Atsushi Miyawaki+
	Health Communication	Takahiro Kiuchi	Tsuyoshi Okuhara	
Behavior Health Sciences	Mental Health	Daisuke Nishi	Kotaro Imamura+	Natsu Sasaki Asuka Sakuraya+
	Health Sociology and Health Education			Masamitsu Kamada
	Health and Social Behavior	Hideki Hashimoto		Daisuke Takagi
	Biomedical Ethics		Yoshiyuki Takimoto Yuzaburo Uetake*	Eisuke Nakazawa
	Human Resource Development for Health			Hiroataka Onishi*
Health Services Sciences	Health Policy	Takahiro Higashi*	Haruhiko Inada*	
	Clinical Information Engineering	Hiroshi Oyama		
	Healthcare Informatics	Kazuhiko Ohe*	Kayo Waki* Takeshi Imai* Yoshimasa Kawazoe+	Hidenao Atarashi* Yusuke Ida+ Shinichiro Yokota*
	Forensic Medicine and Medical Law	Yohsuke Makino*		
	Global Environmental Health		Yoonhee Kim	
	Public Health Science		Takashi Fukuda*	
	Environmental Health Sciences		Seiichiroh Ohsako*	

* Adjunct faculty members. + Project faculty members

Outline of the curriculum

Subject	Description	Credits
Epidemiological Research & Practice	In addition to lectures on basic epidemiological research methodologies, students learn through case studies of the problems which arise when putting these methodologies into practice, as well as ways to overcome them. The core themes of this subject are: epidemiological thought; demonstrating causative relationships; understanding disease onset and ensuring reliability; introduction to epidemiological research design; bias and error variance; controlling bias, particularly confounding; role of statistical analysis; research ethics & consent/protection of privacy; genetic epidemiology; research outcome feedback; and preventive medicine etc.	2
Practice & Assessment in Public Health	Students learn primarily through case studies about practical initiatives linked to occupational & community preventive health based on member feedback of medical checkup results and epidemiology research outcomes. The core themes of this subject are: setting and evaluation of health objectives; development of implementing organizations & allocation of roles/costs; obtaining member consent & information feedback/communication; privacy & protection of personal information; occupational health initiative case studies (role of occupational health physicians); community health initiative case studies (role of public health nurses) etc.	2
Statistics Analysis of Medical Data	By learning about medical research design, statistical hypothesis testing & confidence intervals, sample size design, contingency table data analysis, regression & correlation, stratified analysis, model-based analysis, survival analysis, and multivariate analysis techniques, students acquire the basic knowledge and practical abilities required for statistical analysis of medical data.	2
Practicum in Medical Statistics	Students learn about the main statistical methods covered in 'Statistical Analysis of Medical Data' using actual cases with JMP statistical software. Students also conduct a group work of statistics exercise using an open-data eStat (https://www.e-stat.go.jp/), then improve their understanding of the results through presentation and debate.	2
Design of Medical Research	This subject comprises lectures on epidemiological research & clinical trial design and actual research management. The aim is to equip students with the basic knowledge required to understand studies published in key journals, and to hone their protocol drafting skills as well as the ability to participate in a research office through teamwork. The core themes of this subject are: research design types & characteristics; protocol preparation; drug approval review; quality control & quality assurance; data management; and drafting of academic papers & CONSORT • STORBE statements; etc.	2
Clinical Epidemiology	Subjects of clinical epidemiological studies exist in clinical practice. Researchers must find out research questions in clinical practice, make a study hypothesis and an appropriate study design, make statistical analyses with available data and make clinically valid interpretation of the results. The course provides theories and practical skills of clinical epidemiology that are essential for implementing clinical studies.	2
Clinical Epidemiology Exercise	The course provides hands-on training to help students write their research protocols for fund application through lectures and tutorials. The course also provides how to write medical literature.	2
Health Economics	The course provides basic knowledge about health economics and basic methods for health economic analyses. Through lectures and group debates, students learn how to apply theories of health economics to actual health policy issues.	2
Health Communication	The course overviews major areas and topics of health communication including interpersonal communication in healthcare settings to media communication, and introduces current research, practice and education in health communication. Students learn basic theories and methodologies as well as methods of analysis and evaluation in health communication.	2
Health Communication Practice	Students practice skills for health communication to learn practical applications of the theories and methodologies introduced in Health Communication lecture, and to learn how to make effective health communication in various health settings including healthcare institutions, government, academic and educational institutions, patient organizations, and mass media.	2
Seminar in Healthcare Technology Assessment	The seminar provides the basics of medical technology evaluation. Students will learn a series of health economic evaluation methods such as collection of clinical outcome and cost information for cost-effectiveness analysis, quality of life evaluation, decision tree and Markov modeling, cost-effectiveness calculation, and sensitivity analysis.	1

Subject	Description	Credits
Seminar in Healthcare Organization Management	Not offered for 2024AY	2
Overview on Clinical Medicine	For non-physician students. The course provides basic knowledge of clinical medicine. Students will learn medical terminology and develop basic skills for reading medical articles.	1
Medical research data management and CDISC standards	The course provides the overview of CDISC (Clinical Data Interchange Consortium) Standards, which are determined be obligatory to regulatory new drug submission in Japan, U.S.A, and EU, and will be widely used for medical research data collection, exchange, archiving, etc. in medical research in general besides regulatory clinical research around the world.	1
Cancer Epidemiology	The course systematically provides the basics of cancer epidemiology, including geographical distribution and time trends of cancer incidence/mortality, to effectively identify preventable factors. Cancer registration, analytic epidemiological analysis, systematic review/meta-analysis, evidence based cancer prevention will be treated in class with international and domestic practice cases.	1
Mental Health I	The course provides epidemiology of mental disorders in Japan and other countries, methodology to assess mental health, and current evidence for primary, secondary & tertiary prevention of mental disorders. Students will learn about collaboration and leadership with group members, and exercise to develop mental health measures.	2
Mental Health II	The course provides traumatic stress, perinatal mental health and workplace mental health, which are among the most important topics in mental health, through lectures and discussions. It aims to develop the ability to propose, implement and promote specific measures in trauma-informed care, perinatal mental health and occupational mental health as public health experts.	2
Health Education	The first half of the course provides theoretical basis for understanding health-related behaviors and designing health educational intervention programs at micro and macro levels. Through in-class discussion, students will critically realize a presumed view of human and society, strength and limitations of each theory. The latter half of the course applies theories to real settings in workplace, community, healthcare settings, and school.	2
Health Sociology	The course provides a showcase of sociological theories of health and medicine, to encourage students to critically consider roles and meanings of health, illness, and medical/public health activities in societal context.	2
Biomedical Ethics I	Students consider ethical & philosophical approaches which form the basis of ethical judgments in public health policymaking as well as clinical practice. Areas covered include: introduction to biomedical ethics & history; political philosophy; allocation of medical resources; and informed consent. These topics are addressed in lectures and small-group debates.	2
Biomedical Ethics II	This subject expands upon the topics covered in 'Biomedical Ethics I'. Students read and interpret important literature in the fields of law & morality, rights theory, confidentiality, medical futility, and meta-ethics.	2
Society and Health I	This lecture series provides a broader context of social determinants of health (SDH) including education, poverty, social isolation, living arrangements, social networks, income inequality, and social capital. Currently available theoretical and empirical evidence on SDH will be reviewed and its strengths and challenges will be discussed.	2
Society and Health II	This course expands the discussions in Society and Health I to more practical and political contexts. Course activities include case-oriented discussions, students' group-based presentations and a health impact assessment workshop.	2
Occupational Health: Theory and Practice	This class provides updated information of recent trends and global perspectives in occupational health. Also students learn basis of practical skills to pursue occupational health activities at workplace, through case studies and exercises.	2
Human Resource Development for Health	Participants will be able to learn human resource development for health (health professional education) based on principles related with education and learning through plenary and small group discussion.	2
Primary Health Care	Primary health care and its medical aspect, primary care, will be covered, and participants will be able to learn basic health and medical services and social security systems, such as equity, person-centeredness, collaboration with community resources, and emphasis on preventive care.	2
Healthcare and Community Health in Japan	Not provided in AY2024	1

Subject	Description	Credits
Health Policy	Using several cases related to healthcare policymaking & management, such as prevention and health promotion, access to healthcare, health insurance reimbursement systems, and health policy-making process, this subject provides students with a systematic understanding of various stakeholder perspectives, relevant social systems, funds procurement, and their management.	2
Healthcare Informatics	This subject consists of lectures on healthcare data management, data coding & classification, information technology basics & standardization, data processing techniques, healthcare information system & network technology basics and operation, healthcare information protection & security, and healthcare information system management etc.	2
Practice in Healthcare Informatics	The exercise covers practical healthcare data management & data coding techniques, data processing techniques, and database system design, etc. through using actual patient registry system.	1
Forensic Medicine & Medical Law	Participants will learn the topics about forensic medicine in Japan and other countries, especially, the death investigation system, child abuse, clinical forensic medicine and issues in medical malpractice.	2
Forensic Medicine & Medical Law Exercise	Not offered for 2024AY	2
Public Health Preparedness	This subject teaches students the basics of responding to health risk outbreaks through case studies of typical past cases on: field epidemiological survey methods to deal with health risks such as a new type of influenza, coronavirus infection, and bioterrorism; public health surveillance; identification of the causes of disease outbreaks; and planning, implementation & assessment of countermeasures.	1
Health Administration & Public Health Preparedness Exercise	In this exercise, students learn planning, implementation and evaluation of actual countermeasures against various diseases, organizational and preparedness management in public health practice, and the roles of the public health officers, by visiting actual health administration environments.	2
Environmental Health	This course introduces students to environmental health perspectives on how environmental factors influence human health at individual and population levels. Students will understand basic concepts and methods to assess environmental exposures and health effects. Studies for specific environmental factors (air pollution, water pollution, weather and climate variability) associated with health will be covered and discussed in the course.	2
Public health informatics	Students learn the basics of public health informatics. To that end, the subject focuses on geographical information system, infection surveillance system and disease registration system associated information processing techniques.	2
Seminar in Public health informatics	In this exercise, students learn about practical public health information engineering through case studies on geographical information system using R.	2
Methods for Environmental Health Research	This course introduces students to the advanced methodologies to investigate the short-term effects of environmental risk factors on human health. It will provide basic concepts, study designs and statistical regression models using time-series data that have been widely used and intensively developed for the last few decades in the field of environmental epidemiology. Students will be able to interpret time-series data and regression models and acquire skills to apply the methodologies through hands-on practice using R.	2
Comparative Healthcare Systems in Asia	Not offered for 2024AY	2
Internship	Students attend public health facilities (public health research & testing facilities, think tanks, NPOs, healthcare facilities etc.) and leverage their subsequent practical experiences to develop skills in identifying personal initiatives, conducting analysis, and planning measures/policies.	2
Special Lecture in Public Health	The course enables students to better understand the contribution of health science to improve public welfare, by addressing related research and practical activities, and challenges in the various field of public health practice which constitute a crossing point between public policy & real-world activities.	2
Independent Study	Under the research supervision from chosen faculty members, students acquire advanced problem-solving capabilities through fieldwork, data collection, analysis, statistical analysis and paper writing on a particular research theme.	6

公共健康医学専攻修了生からのメッセージ

好井 優衣 (12期生 2年コース 独立行政法人国際協力機構 (JICA) 人間開発部)



私は栄養学を通じて人々の健康に貢献したいという想いから、SPH に入学しました。SPH の 2 年間で学んだことは数えきれませんが、何より公衆衛生に携わる者としての責任感、倫理的姿勢、そして課題に立ち向かう心構えを学びました。さまざまな分野の第一人者の先生方による講義や研究指導を通じて、研究を通じて人々の健康を支えるという情熱、社会の動きや問題を的確に捉え分析する能力、そして研究対象となる集団の課題に敬意を持って向き合う姿勢を肌で感じました。医療分野での実務経験がない私にとって、多様な専門知識と経験を持つクラスメートとの議論は、大きな刺激になりました。現在は、栄養不良の問題解決をはじめ、誰もが健康に生活できるような体制の構築に貢献したいと思い、国際協力機構 (JICA) でタイやラオスの保健セクターのプロジェクトを担当しています。日本に限らず、世界中どこでも、行政官や研究者による人々の健康を守りたいという熱い思いは共通しています。自分もその貢献の一助となれるよう、SPH で学んだ知識と経験を活かし、今後も精進したいと思います。

島田 裕平 (14期生 2年コース 東京大学大学院法学政治学研究科 博士課程)



東大 SPH の 2 年間は「長くて短い」というのが修了した時の率直な感想です。「長い」というのは、潤沢に用意された資源を使って各自が活動に打ち込めるためです。法学部から進学した私は、統計や臨床についてゼロから (講義資料や周囲の厚いサポートに頼って) 学習することに時間を割きました。同期生には、どんどん新しい統計手法を身につける人、企業や行政へインターンシップに行く人、人文社会系研究科などの他学部聴講へ行く人もいました。新型コロナ流行期には保健所支援などの社会活動に取り組む人も多かったです。「短い」と感じたのは、Public Health という広がり続けるテーマについて、まだまだ学び足りないと思ったためです。しかし在学期間は短くとも、私たち SPH は修了後も繋がりを続けています。例えば私は法学政治学研究科へ進学し医療政治学を研究していますが、韓国との比較研究のために SPH 卒業生としてソウル大学 SPH に派遣していただきました。また、所属した研究室の繋がりから、災害医療研究に関連して DMAT 事務局へのインタビューの機会を得たり、日本医学会を通じた医学研究評価の調査にも携わったりしました。ビジネス・行政・臨床・アカデミアへと広がる Public Health ネットワークへ飛び込む上で、東大 SPH は最高の入口だと思います。

北澤由佳子 (15 期生 2 年コース 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED) 研究公正・業務推進部)



もしここに「東大 SPH に興味があるけれど自分には畑違いなのではないか…」と悩んでいる方がいらっしゃったら、どうか勇気をもって一步踏み出してほしいと思います。私は法学部出身の海運会社社員という、まさに「畑違い」の人間でした（ここまで畑違いの人は稀有かもしれません…）が、医療倫理への関心と「皆が自分らしく幸せに生きられる社会を作りたい」との思いから SPH に入学しました。未知の世界で馴染みのない用語が飛び交う様子に最初は気圧されていましたが、そのような私を受け入れ、他と違うことをむしろ面白がってくれる環境が SPH にはありました。公衆衛生は、分野を飛び越えて生まれたアイデアや異なるバックグラウンドを持つ人たちの新鮮な意見を重視する、非常に学際的な学問です。一人ひとりの経験に独自の価値があり、それらが混ざり合うことで、SPH での学びがより豊かになるのです。修了後は、日本医療研究開発機構(AMED)において研究公正や患者市民参画(PPI, Patient and Public Involvement)の推進、研究開発における ELSI (Ethical, Legal and Social Issues) 対応を担当しています。SPH で身につけた医学系研究や医療倫理学の知識、そして公衆衛生全般の考え方が、そのまま活かされています。熱い思いをもった先生方と、高い志をもち好奇心旺盛な同期に囲まれて学んだ 2 年間で、私の人生を大きく転換させました。

重見 大介 (11 期生 1 年コース 産婦人科医、株式会社 Kids Public 共同代表)



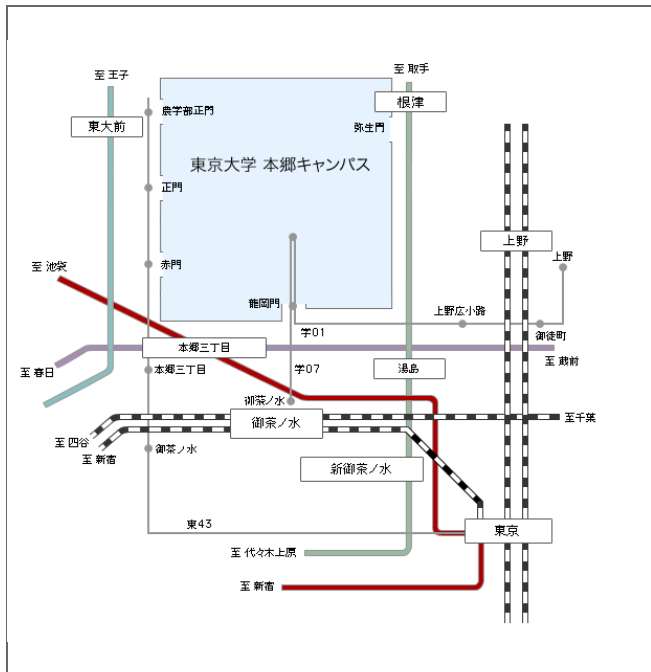
私は産婦人科医として 10 年以上診療に携わってきました。その中で、専門医という資格を取る前後くらいに「もっと科学的根拠をしっかりと扱えて、論文を正しく読めて自身で研究もできるような医師になりたい」と思うようになり、色々と調べた結果、体系的に生物統計学や研究デザイン、疫学を学ぶことのできる公衆衛生大学院への進学を決めました。その大学院が、私の視点や価値観、その後のキャリアを大きく変えることになりました。東大 SPH では、臨床研究の知識やスキルを学ぶだけでなく、クラスメイトや教員とのディスカッションを通じて「公衆衛生学的視点で見えてくる、女性の健康に関する社会課題」に目を向けられるようになりました。質の高い授業をしてくださった教員の先生方とクラスメイトには深く感謝しています。また、在学中に研究室に所属し、卒業前の研究発表会で発表した内容は、博士課程の初期に英語論文として publish することができ、その後の研究活動の励みになりました。現在は SPH で学んだことや得た視点を活かし、ベンチャー企業の経営メンバーとして有益な仕組みの社会実装にも挑戦しています。SPH への進学を考えているのであれば、ぜひそのチャレンジを応援したいですし、「心の中にあるワクワク」を大事にしてほしいと思います。

足立 里穂 (15期生2年コース Tufts University Friedman School of Nutrition Science and Policy, Doctoral program)



学部で栄養学を専攻し、病院で管理栄養士として勤務した後、東大 SPH に入学しました。おいしさを科学的に追求する学部のとときの研究も面白く、病院の栄養指導で食事療法のサポートをすることもやりがいがありました。おいしいものを食べながら皆が自然と健康になれる社会をつくることはできないか？という疑問を持ったときに、公衆衛生学という学問に出会いました。東大 SPH では、日本の公衆衛生分野における課題を中心に、課題を解決するための考え方と技術を学びました。所属していた社会予防疫学分野では、協力して下さる方々から集められた食事等のデータが、クリーニングされ、解析され、論文として出版され、社会に還元されていくプロセスを経験することができました。知識を惜しみなく授けて下さる先生、いつも新しい視点を与えてくれる同期、同じ志をもつ研究仲間との出会いには感謝できません。現在はアメリカで博士号を取得するべく留学中です。世界には、日本の栄養課題と似ている課題も大きく異なる課題もあり、さらに視野が広がりました。引き続き、上記の疑問の解決策を探すため勉強・研究に励みたいと思います。多様なキャリアの選択肢のひとつとして、ぜひ東大 SPH を検討してみてください。

アクセスマップ



※ 詳細については、公共健康医学専攻（専門職大学院）のホームページ <http://www.m.u-tokyo.ac.jp/sph/> をご参照ください。



東京大学 大学院 医学系研究科
公共健康医学専攻

School of Public Health

The University of Tokyo

7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0033, Japan

2024年 4月 発行